

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れている。個別の支援が十分に行なえていない。	馴染みの地域・お店・行きたいところ・会いたい方と会える。	日常生活の中やご家族様の聞き取りをもとに情報を収集し、担当職員が年間を通しての計画を立て、行きたい場所や会いたい人に行けるように支援する。	12ヶ月
2	2	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう事業所自体が地域の一員として日常的に交流出来ていない。地域開催の行事に積極的に参加する。	これまでの「絆サロン」への参加数と参加頻度を増やす。事業所開催の催しを実施し、地域の方々に参加して頂く。	「絆サロン」開催日は事前に決まっており、当日の職員配置を増やす。催し担当者を決め年内中に行なえる催しを考案する。	12ヶ月
3	26	利用者の表情や発言、拒否があった時は要因を記録し、モニタリングを根拠にし、個別支援のケアプランになっていない。	経過観察記録や排泄表・バイタル表などの記録誌をフルに活用し、「気づき」をケア会議で話し合い、プランに盛り込む。	ご利用者様全体的に立位・歩行機能の低下が見られ、サービス内容に個々に合った歩行促す項目を盛り込み機能の向上に取り組む。	6ヶ月
4	45	週に3回以上の入浴支援が出来ていない事が多く原因として職員の減少や身体機能の低下から1日に入浴介助を行なえる方が2~3人と減少している。	職員の定数も安定し、日勤帯の配置も充実し、入浴介助時間帯の職員の配置を考慮する。	自立の方には、希望を優先し、入浴表を基準に週3回以上の入浴支援を行ないます。汚染・不潔時には随時行う。	6ヶ月
5	36	ご利用者様個々の情報を理解したうえでの支援が不足している。	言葉使い・スキンシップ・立ち位置に配慮し、個別の距離感を保ちながら支援・介助ができる。	職員間の名前呼び方からただし、ご利用者様の頭の上で話さない。業務に関する申し送りを聞こえる距離で話さない。業務を行なっている場所を移動する際には、職員間での声掛けを行なう。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。